

# 「五黄の寅」と 「新型コロナウイルス の収束」



苫小牧市医師会  
同樹会苫小牧病院

みず しま やす ひろ  
水 島 康 博

「五黄の寅」は九星と十二支を組み合わせたもので九星とは古代中国から伝わる民間信仰で「東洋の占星術」とも言われ、日本でも「九星気学」という占いとしても知られており、その中の一つに「五黄土星」がある。五黄の寅とは九星の「五黄土星」と十二支の「寅年」が重なる年のことで令和4年(2022年)は、その年にあたる。九星は9年周期、十二支は12年周期なので五黄の寅は、その最小公倍数である36年に一度だけ巡ってくることになる。五黄土星生まれの人は「周囲を圧倒するほどのパワーの持ち主で困難を克服する強い意志と行動力がある」といわれている。そのため五黄土星に寅年が合わさった「五黄の寅」に生まれた人は最強の運勢を持っていると考えられている。

私は1950年(昭和25年)3月1日生まれの五黄の寅。次回2058年は生きていないだろうから今年の運気を最大限生かしたいと思う。

新型コロナウイルスの新規感染者数が令和3年9月中旬から激減している。ワクチン接種が進んだことも要因として重要と思われるが、別の要因でコロナが消滅するに至ったという説がある。「エラー・カタストロフ(ミスによる破局)の限界」という理論だ。ドイツの生物物理学者で1967年ノーベル化学賞を受賞したマンフレート・アイゲンが1971年提唱したもので「ウイルスは変異しすぎると自滅する」というものである。ウイルスが増殖する際に複製のミスが起きると変異株が生まれる。このとき高い複製能力を持つ変異株が生まれてしまうと急速に感染が拡大する。しかし、増殖が速ければ、それだけさ

まざまな複製のミスも起こる。その結果、ある一定の閾値を超えるとウイルスの生存に必要な遺伝子までも壊してしまいウイルスが自壊する。この考え方を「エラー・カタストロフの限界」と呼ぶ。歴史的なパンデミックの事例を見ても、増減を繰り返した後、突如、収束に向かっている。

他にも新型コロナの毒性が弱まって感染力や発症率が劇的に下がったという説がある。2021年9月22日英国オックスフォード大学のサラ・ギルバート教授は、自身の講演で「新型コロナウイルスは弱毒化して最終的には風邪の原因の一つになる」と指摘している。

諸外国に比べて死亡者数が低い日本においてコロナが宿主とともに消滅した可能性は低い。ウイルスが生き残るため、自然の摂理で感染力や発症率を弱めているのだとしたら、感染者が大幅に減ったのもうなずける。

2021年2月、沖縄科学技術大学院大学の研究論文が話題になった。発表したのは同大教授を兼ねる独マックス・プランク進化人類学研究所長のスバンテ・ペーボ博士。古代人のDNAを解読し、現代人の祖先とネアンデルタール人が交雑していたことを突き止めた研究者だ。「現代人はネアンデルタール人から新型コロナウイルス感染症の重症化を防ぐ遺伝子を受け継いでいる」という研究論文だ。ネアンデルタール人由来の重症化を防ぐ遺伝子は、現代人の12番目の染色体にある。体内でコロナウイルスの遺伝情報(RNA)を分解する酵素の働きを強め、重症化のリスクを約20%下げるといふ。この遺伝子は、日本人の約30%が持つ。また、現代人は新型コロナ感染症を重症化させる遺伝子もネアンデルタール人から受け継いでいる。しかし、日本人はほとんど持たず、南アジアの人は約50%が持っているという。日本人は遺伝的にコロナに強い人種なのかもしれない。

「日本に根づいたマスク文化が功を奏したのではないか」と推測する人もいる。理由はどうであれ五黄の寅年、コロナは収束すると勝手に予想している。

本会では、例年新年号に「新春随想」を企画し、年男・年女に当たられます会員諸氏より無作為に選定させていただき、執筆をご依頼申し上げております。

時節がら、ご多忙にもかかわらず、ご寄稿いただき感謝申し上げます。

北海道医師会会員数は、男性7,194名・女性1,035名の合計8,229名(12月13日現在)。そのうち寅年生まれの会員は別表のとおりです。

◇情報広報部◇

(名)

	男性	女性	合計
36歳	24	8	32
48歳	110	29	139
60歳	208	29	237
72歳	143	11	154
84歳	44	5	49
96歳	14	1	15
合計	543	83	626